

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 3 月 日作成)

小委員会名	環境心理小委員会		主 査 名：小島 隆矢 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境心理生理運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：大井 尚行
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究の研究成果を整理・発展させる組織的 取り組みを行う ・2005 年度 課題の発見、活動体制（設置 WG）の検討 ・2006 年度 研究者データベースの整備、将来取り組むべき課題の調査 ・2007 年度 将来取り組むべき課題の検討 ・2008 年度 活動を継続。成果の検証・次期小委員会に向けての問題整理		
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：有 小島 隆矢（早稲田大学）、古賀 誉章（東京大学）、佐野 奈緒子（東京大学）、渡辺 秀 俊（文化女子大学）、榎 究（実践女子大学）、高橋 正樹（文化女子大学）、宗方 淳（千 葉大学）、片山 めぐみ（札幌市立大学）、上野 佳奈子（東京大学）、高橋 浩伸（九州大 学）、村松 陸雄（武蔵野大学）、辻村 壮平（千葉工業大学）、稲生 克義（東京電機大 学）、藤本 麻紀子（共立女子大学）、大石 洋之（安田女子大学）		
設置 WG (WG 名：目的)	環境心理の学際的展開 WG：環境心理研究の活性化のため、関連分野の研究者等 と共同して研究会等を行い、学際的な展開を行う。		
2008 年度予算	83,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	1. 第 7 回 環境心理生理チュートリアル 参加者数 27 名
催し物 (シンポジウム・セミナ ー・研究会・見学会等)	1. 第 66 回空間研究小委員会研究会 生理計測による空間評価研究の可能性 (建築計画委員会 空間研究小委員会・建築人間工学小委員会と共催) 参加者数 ?? 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 当委員会が中心となって企画・実施した環境心理生理チュートリアルは、関 連分野を含めた研究のレベルアップおよび人的交流に貢献したと思われる。 2. 環境心理の学際的展開 WG の活動、計画系委員会との共催研究会など、関連 分野の研究者等を含めた学際的な活動を展開することが出来た。 3. 次期小委員会に向けての活動方針等について検討した。
委員会活動の問題点 ・課題	特になし

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共
通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	①	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>「人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究の研究成果を整理・発展させる組織的取り組みを行う」という設置目標に対し、以下の活動を実施した。</p> <p>●2005-2006 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境心理研究に求められる潜在的なニーズの発掘のための環境心理研究者（テーマ）のデータベースの整備、各委員が得意とする分野に関する研究状況の報告を行い、取り組むべき課題について討論した。 スケジュール調整が遅れたため非公式行事となってしまったが、「環境心理生理チュートリアル」を実施した。 関連分野の研究者との交流、若手研究者の参画促進などの活動方針を定めた。 <p>●2007-2008 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員を公募し、何名かの若手研究者をメンバーに加えた。 本委員会のうち何回かは他の小委員会や運営委員会との合同開催とし、また、若手委員・新委員のミニ研究発表会を委員会内で行うなどの活動により、環境心理生理分野における交流・活性化をはかった。 学際的な展開のため「環境心理学の学際的展開WG」を設置し、関連分野の研究者を含めた交流研究会等の活動を行った。 関連分野との交流の一環として、計画系の委員会と共催で「生理計測による空間評価研究の可能性」という研究会を実施した。 2007, 2008 年度とも「環境心理生理チュートリアル」を大会前後の日程で企画・実施し、学生を含めた若手研究者の教育および人的交流促進に努めた。 <p>以上に述べた若手参画、学際的展開による活性化を中心とした活動により、目標達成度は 80%程度と評価する。ただし、HP 公開、研究室訪問など、計画や準備は行ったものの、まだ実現していない企画もあるので、本小委員会の成果をふまえた上で、次期小委員会にて検討していくことが望まれる。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。